

ボランティア

ボランティア活動グループ訪問記

「音」で届ける文字情報

～相模原市録音奉仕会 ひばり～
CDに録音して届ける音のボランティア

昭和53年に設立。市社会福祉協議会に所属する録音奉仕会ひばりはボラ協よりも長い歴史あるボランティア団体です。視覚の障がいのある方々に市内のいろいろな広報紙や情報誌、本など文字で書かれたものを読み上げてCD録音、届けるという活動を続けていらつしやいます。あじさい会館の4階の録音室が主な活動の場。その様子を会長の江田博江さんの案内で取材させていただきました。

訪問した8月25日はいつもあるグループの中の「広報さがみはら10月号」担当の皆さんが9月1日発行を目指して活動する1日目でした。相模原市から10月号、11月号と毎月委託されているもので、市から届いた印刷前の原稿(版下)の指定された部分を録音、発送まで行う期限があるもの。

今日はアールのある作業室で、録音歴40年のベテランから初めての録音に臨む方まで11名で読む



録音奉仕会のパネルと江田さん

記事を分担し、録音に向けて細かく検討する作業が始まっています。広報の記事をただ割の振るのではなく、読む読まないフリースとしてどこで切るか、略号

記号の扱い、固有名詞のアクセントなど、意見を出し合っている時には声に出して読み上げ、一つ一つ確かめ、皆さんの手元のコピー原稿は赤や青、マーカーなどびっしり書き込まれていきます。そばで見ていると集中力と真剣さがひびいて伝わってきます。文字を目で読んでいると意識しないような紙面内に配置された情報を、語順を変え、助詞や言葉を加え、「聞いてわかる」ようにする技に感心するばかりでした。



原稿の割り振り/意見を出し合っ

午後、新人の方の読み上げの録音を見せていただきました。録音室のマイクの前で原稿を読むと録音前室で先輩方がモニターしています。アクセントの違いや語尾の癖、次の言葉によって変わってくる発音の上がり下がりなど何度も止めてやり直し。言わなければならない流し流ししてしまうほどの微妙な違いも指摘されます。元アナウンサー職という江田さんでも「この録音奉仕会は今までの中で一番指摘が厳しい」とおっしゃるほど。

ベテランの方たちはそれぞれ自宅でパソコンを使って録音、3日目には録音データを持ち寄り、別の方が誤読等ないかモニター、指摘部分を訂正録音し再度モニター。最低でも3回のモニターを経てOKの出たものを繋ぎ、通しモニターをした上でマスターCDに仕上げるとのこと。これらの作業はすべて専用ソフトを使って行われるそうです。

そして4日目、広報課から委託された枚数(80枚以上)をタビリングし視覚障がい者用郵袋で読者(利用

者)のもとに9月1日に届くように発送されます。短期間に凝縮して仕上げる作業はプロフェッショナル!

休憩中に何人かの方にお話を伺いました。

- ・広報の募集を見て入会。思ったより技術がいることに驚きました。厳しい研修でしたが残った方たちで役に立つまで頑張ろうと励み合ってきました。
- ・知り合いがいたので、自分も人の役に立ちたいと入会、10年も経ちました。最近年齢で声が思ったようにならないのが悩みです。

- ・新型コロナウイルスで活動に自宅での録音が増えました。一人でパソコンに録音するのは心細いときもあります。録音室で人のモニターをするのとはとても勉強になります。

- ・自宅での録音は自分のペースでできます。何気ない日本語の難しさを感じ、普段からの言葉への意識が変わりました。

今回は「広報さがみはら」でしたが、「健康相模原」「市議会だより」など市からの受託、利用者の方の希望で小説の録音盤づくりや対面での音訳などもしているそうです。また、初心者への講座のほか外部講師を招いて年に1、2回勉強会もしているとのこと、奉仕会の皆さんの向上心、良いものを届けようという熱意を目の当たりにし感銘を受けた取材でした。

(小川・杉崎)

相模原市録音奉仕会ひばり

〒252-0236 相模原市中央区富士見 6-1-20

あじさい会館2F

Email sagamihara.rokuhou1978@gmail.com

会長 江田 博江

